



# 2025 年度 環境報告書

## 環境理念

私たちは、地球環境保全が 21 世紀における人類の最も重要な課題の一つであることを認識し、地球環境保全と将来の世代の夢が守られる持続可能な社会の義務に向け、積極的に貢献を行っていきます。

## 2025 年度環境活動概要

私たちは、国内における Scope1 および Scope2 の GHG(温室効果ガス) の年間排出量を把握し、継続的に監視しています。2014 年度には、事業拡大に伴い上野事業所が加わったことで排出量が最大となりましたが、当社は 2013 年度(パリ協定の基準年)を基準年としています。2025 年度時点で、当社の GHG 排出量(159t-CO<sub>2</sub>)は基準年比で 33%削減しており、パリ協定(2016 年発効)に基づく国内目標である 2030 年度までに 46%削減の達成を目指しています。また、循環経済(サーキュラーエコノミー)への対応として、廃棄物の削減・再利用・リサイクル(3R)を推進し、分別および削減を行うと同時に有価物化を進めています。2023 年度は年間排出金額を前年度比 36.5%削減したことを踏まえ、2024 年度および 2025 年度はその水準の維持を目標としました。その結果、2025 年度も分別の徹底および排出回数の削減を実施したことで、排出金額は前年比 103.7%と微増にとどまりました。一方、重量比では 8.2%の削減を達成しました。

# 2025 年度(53 期)環境報告書

## 1. 適用対象事業所の概要

当社は、国内の 4 つの事業所および蘇州惠普聯電子有限公司を環境管理の管理組織と位置づけ、各組織において、事業活動や製品・サービスの領域における環境マネジメントシステムの確立、運用管理、監視および改善活動を推進しています。これにより、継続的な環境パフォーマンスの向上を目指しています。また、当該年度には、外部審査機関である BSI グループジャパンによる ISO 統合(ISO 9001、ISO 14001)のサーベイランス審査が実施されました。本審査は年 1 回実施され、規定に基づく厳正な評価が行われます。その結果、当社は「法規制・その他要求事項チェックシート」などの評価基準をクリアし、ISO の継続認証を取得しました。

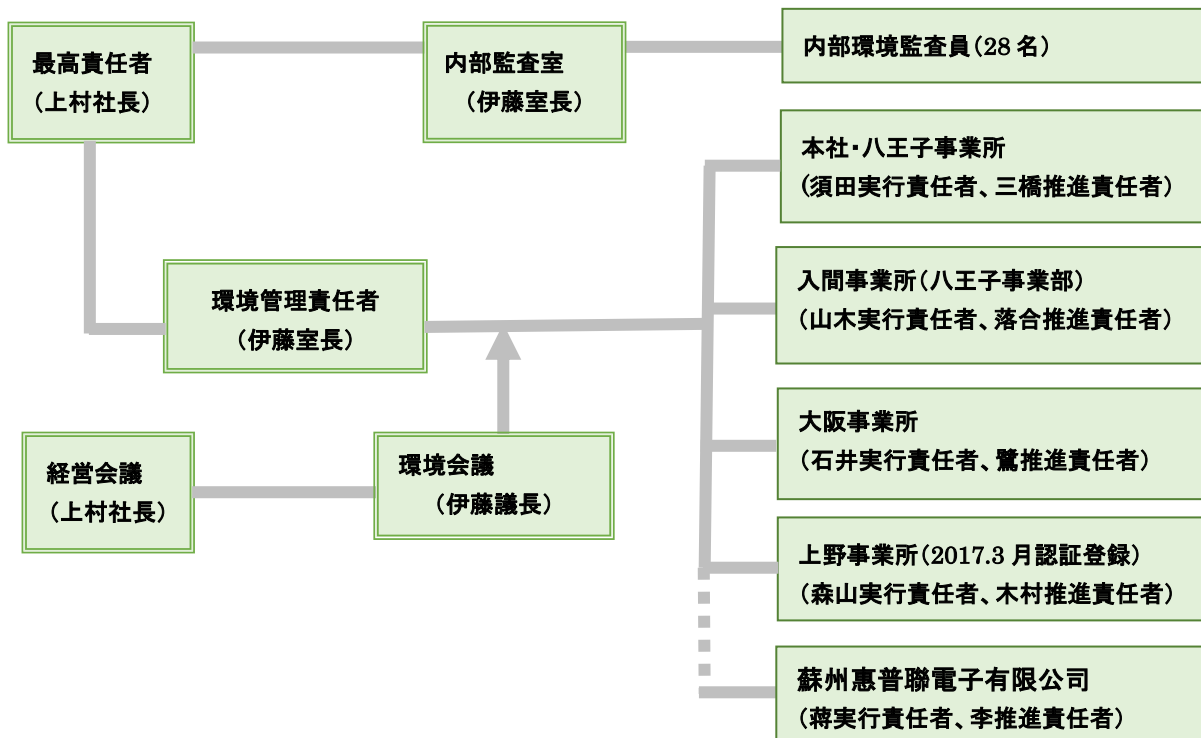
### 対象事業所

- 本社・八王子事業所(HHdiv)
- 入間事業所(IPlant)
- 大阪事業所(Odiv)
- 上野事業所(SSdiv)
- 蘇州惠普聯電子有限公司(SZE) [中国江蘇省]

## 2. 環境活動経緯

日時	環境活動と取り組み
2003.05 月	SONY GP(グリーンパートナー)認証取得(八王子事業所、CBS 統括事業部対象)
2004.06 月	ISO14001 登録証受領(国内 3 拠点)(登録番号 C2004-01417)
2005.02 月	中国・蘇州の ISO14001 拡大取得(登録番号 C2005-00331)
2006.02 月	2004 年規格へのアップグレード審査受審、認証登録完了(登録番号 C2006-01334)
2006.04 月	大阪事業所小松分室のサイト拡大審査合格
2008.06 月	グリーン調達ガイドライン(AO1003-OP)を制定し運用開始
2010.04 月	「エコキャップ活動」と「C25 キャンペーン活動」に賛同し具体的な活動を推進
2012.01 月	SONY GP(グリーンパートナー)再認証取得(八王子事業所、CBS 統括事業部対象)
2013.05 月	4 サイトの ISO 再認証審査を受審し認証登録の更新完了
2014.05 月	新たなビジネス領域として上野事業所(旧タンバック社)を傘下に収める PJR 認証機関から BSI Group Japan へ移転審査を受審し、移転認証登録完了
2015.04 月	事業効率化のため、株式会社タンバックを吸収合併し、システムソリューション事業部(上野事業所)とする上野事業所の事業所移転
2017.03 月	上野事業所のサイト追加拡大審査を受審し、認証登録が完了
2018.03 月	ISO14001 2015 年規格移行審査受審、全 5 サイトとも認証継続
2019.12 月	EMS 管理責任者を小保方から伊藤に交代
2022.05 月	社屋の LED 照明化実施(八王子事業所、入間事業所)
2023.10 月	ISO14001 と ISO9001 を統合審査へ移行、統合サーベイランス審査を受審し、全 5 サイト認証継続
2024.10 月	ISO14001 と ISO9001 を統合内部監査へ移行
2025.07 月	ISO 統合(9001, 14001)サーベイランス審査を受審し、全 5 サイト認証継続

### 3. 環境管理組織(2025年度)



### 4. 環境方針(2025年度)

## 環境方針

### 環境理念

私たちは、地球環境保全が21世紀における人類の最も重要な課題の一つであることを認識し、地球環境保全と将来の世代の夢が守られる持続可能な社会の義務に向け、積極的に貢献を行っていきます。

### 環境方針

1. 産業用コンピュータシステムに関する事業活動を通じ、省資源、省エネルギー、廃棄物の減量、有機溶剤消費の削減等を行い、環境負荷の軽減に努めます。
2. 環境配慮設計及びグリーン調達に取組み、有害物質の使用を避け、RoHS適合製品の提供を推進(鉛フリー等)し、有益な環境側面の創出に努めます。
3. 継続的な環境改善と汚染の予防に努めます。
4. 法規制、顧客要求・その他要求事項を順守し、環境保護へのコミットメントを推進します。
5. 環境目的、目標を設定、運用管理、監視・測定し、必要に応じて見直しを実施します。環境パフォーマンス向上のため、定期的なレビューを行い、環境マネジメントシステムの継続的改善活動を推進します。
6. この方針は文書化し、実行維持し、全従業員と当社のために働く人に周知徹底します。また、社外からの人々の要求に対して開示します。

制定 2024年04月01日

エブレン株式会社  
代表取締役社長 **上村 正人**

## 5. 方針、目的目標および活動実績の概要

2025 年度の ISO 環境マネジメントシステム活動では、2015 年版規格への適合性の確保と、運用の定着化に注力しました。特に、「組織の状況」「リーダーシップ」「リスクおよび機会への対応」といった 2015 年版の重要要求事項への意識的な取り組みを継続し、環境パフォーマンスの向上に努めました。

推進活動の主なポイントとしては、従来通り、法規制およびその他の要求事項の遵守活動、環境配慮型製品の提供、有害物質の削減・排除による RoHS 指令への適合、快適な職場環境の改善、ならびに環境負荷の低減・資源の効率的活用・適切な維持管理の実施を挙げることができます。

2025 年度は、社内で使用している溶剤を有機則の規制対象外の有機溶剤へ変更するなど、より安全な職場環境づくりを推進した。

また、当社は、持続可能な社会の実現に向け、事業活動全体において地球環境保全を重視した取り組みを推進します。政府が提唱する「COOL CHOICE(賢い選択)」および「デコ活(脱炭素につながる新しい豊かな暮らし)」の理念に賛同し、すべての従業員が日々の業務や生活において環境に配慮した行動を選択・実践することを基本姿勢とします。

八王子事業所および入間事業所では、2022 年度に全照明を LED 照明に更新し、大幅な電力削減を達成しました。具体的には、八王子事業所で月平均 4,100kWh、入間事業所で月平均 900kWh の削減効果がありました。また、入間事業所では 2024 年度に旧型エアコンを高効率型へ更新し、月平均 370kWh の電力削減を実現しています。

工場稼働率の上昇に伴い売上高も増加傾向にありますが、国内事業所の年間電力消費量は節電効果により前年度比でわずかに 1.0% ですが削減になりました。一方、燃料調整費や再生可能エネルギー賦課金の単価上昇を受け、年間の電気料金は前年度比 1.1% 増加しました。電力使用量は気候変動の影響を受けやすく、特に空調機器の稼働率に影響しますが、今後も継続的な電力使用量の削減に取り組めます。

加えて、本年度も滞留資産の分析と削減活動を実施しました。産業廃棄物については、3R(Reduce・Reuse・Recycle)の観点から継続的な削減に努め、一部を有価物として売却することで良好な成果を得ています。今後も、重要な環境側面およびリスクを的確に把握し、環境マネジメントの向上と環境保全活動のさらなる推進に努めてまいります。

## 6. 2025 年度の実績評価

### ① 改善推進テーマ

推進テーマ	組織体	目標値	実績値	達成率	判定
有益な工場環境の実現 (モデル工場)	HHdiv	6.0 件の改善実行[5S 維持管理]	10 件改善完了	167%	○
	HHdiv	3.0 件の改善実行[安全環境配慮製造ライン]	10 件改善完了	333%	○
	HHdiv	24.0 件の改善実行[変種変量製造ライン]	47 件改善完了	196%	○
	IPlant	6.0 件の改善実行[機能的な安全快適な工場環境実現]	9 件改善完了	150%	○
	Odiv	24 件の改善実行[社内資産活用し効率的な作業環境実現]	26 件改善完了	108%	○
	Odiv	12 件の改善実行[3T 実施と継続]	13 件改善完了	108%	○
	Odiv	12 件の改善実行[5S 実施と継続]	13 件改善完了	108%	○
	SZE	部品 12 件以上環境負荷物質の含有物調査	12 件調査完了	100%	○
不良資産の発生抑制	SSdiv	4 件の改善実行[資材調達方式改善]	4 件改善完了	100%	○
仕損じ撲滅活動	HHdiv	1,020,000 円以下	395,774 円	39%	○
	IPlant	324,000 円以下	292,030 円	90%	○
	Odiv	624,000 円以下	461,247 円	74%	○
	SSdiv	336,000 円以下	74,247 円	22%	○
	SZE	24,000 円以下	3,151 円	13%	○

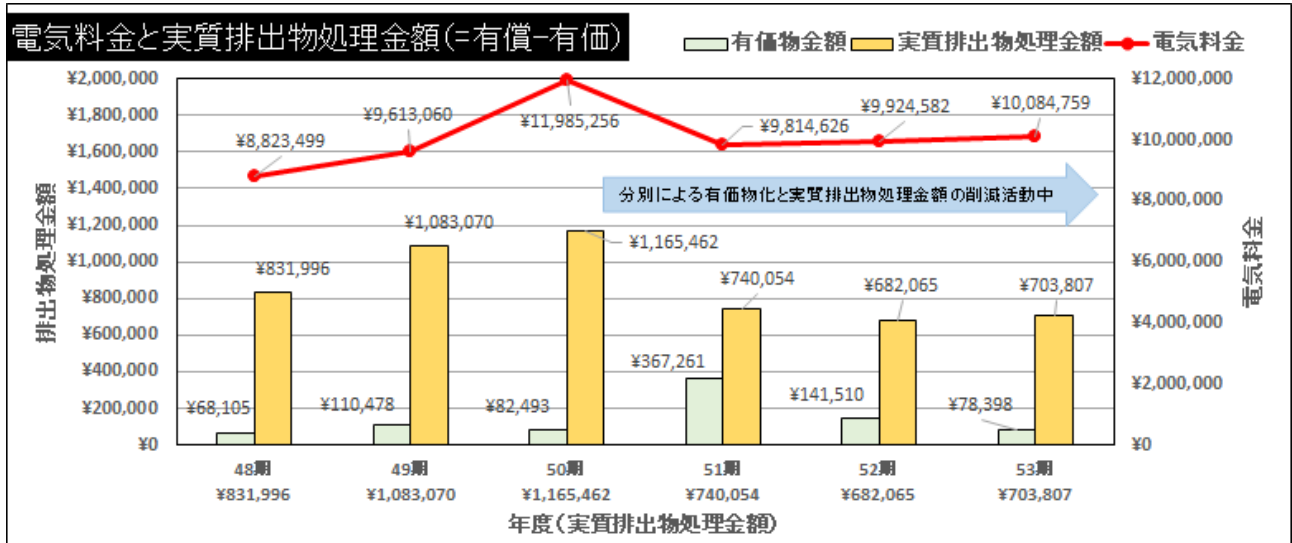
## ② 継続監視テーマ

推進テーマ	管理組織体	監視基準値 (125%)	前年実績値	実績値	前年対比	判定
資源枯渇抑制 (電力使用量)	HHdiv	161,728kWh 以下	129,382kWh	125,230kWh	97%	○
	IPlant	81,726kWh 以下	65,381kWh	64,431kWh	99%	○
	Odiv	140,524kWh 以下	112,419kWh	111,803kWh	99%	△
	SSdiv	43,996kWh 以下	35,197kWh	35,863kWh	102%	△
	SZE	11,299kWh 以下	9,039kWh	8,419kWh	93%	○
資源枯渇抑制 (燃費)	HHdiv	13.3km/ℓ	16.7km/ℓ	17.3km/ℓ	104%	○
	IPlant	6.9km/ℓ	8.7km/ℓ	8.4km/ℓ	97%	△
	Odiv	13.9km/ℓ	17.4km/ℓ	15.8km/ℓ	91%	△
	Odiv	7.5km/ℓ	9.4km/ℓ	11.1km/ℓ	118%	○
資源枯渇抑制 (用紙)	HHdiv	308,750 枚以下	247,000 枚	257,000 枚	104%	○
	Odiv	122,500 枚以下	98,000 枚	111,675 枚	114%	△
	SSdiv	15,625 枚以下	12,500 枚	12,500 枚	100%	○
	SZE	27,500 枚以下	22,000 枚	22,000 枚	100%	○
資源枯渇抑制 (水道)	HHdiv	424 m <sup>3</sup> 以下	339 m <sup>3</sup>	316 m <sup>3</sup>	93%	○
	IPlant	159 m <sup>3</sup> 以下	127 m <sup>3</sup>	134 m <sup>3</sup>	106%	△
	Odiv	359 m <sup>3</sup> 以下	287 m <sup>3</sup>	301 m <sup>3</sup>	105%	△
	SSdiv	158 m <sup>3</sup> 以下	126 m <sup>3</sup>	152 m <sup>3</sup>	121%	△
	SZE	219 m <sup>3</sup> 以下	175 m <sup>3</sup>	210 m <sup>3</sup>	120%	△
産業廃棄物	HHdiv(燃焼ゴミ)	450kg 以下	360kg	410kg	114%	△
	IPlant(燃焼ゴミ)	113kg 以下	90kg	160kg	178%	×
	Odiv(燃焼ゴミ)	0kg 以下	0kg	0kg	-	-
	SSdiv(燃焼ゴミ)	218kg 以下	174kg	198kg	114%	△
	SZE(燃焼ゴミ)	0 k g 以下	0kg	0kg	-	-
資源枯渇抑制 一般廃棄物 (排出物、有価物)	HHdiv(有償排出)	3,854kg 以下	3,083kg	3,077kg	100%	○
	IPlant(有償排出)	1,784kg 以下	1,427kg	1,065kg	75%	○
	Odiv(有償排出)	3,275kg 以下	2,620kg	2,660kg	102%	○
	SSdiv(有償排出)	0kg 以下	0kg	0kg	-	○
	SZE(有償排出)	15kg 以下	12kg	8kg	68%	○
	HHdiv(有価)	-	1,631kg	1,833kg	112%	○
	IPlant(有価)	-	2,797kg	1,915kg	68%	×
	Odiv(有価)	-	5,060kg	4,430kg	88%	△
	SSdiv(有価)	-	0kg	0kg	-	-
	SZE(有価)	-	752kg	731kg	97%	△

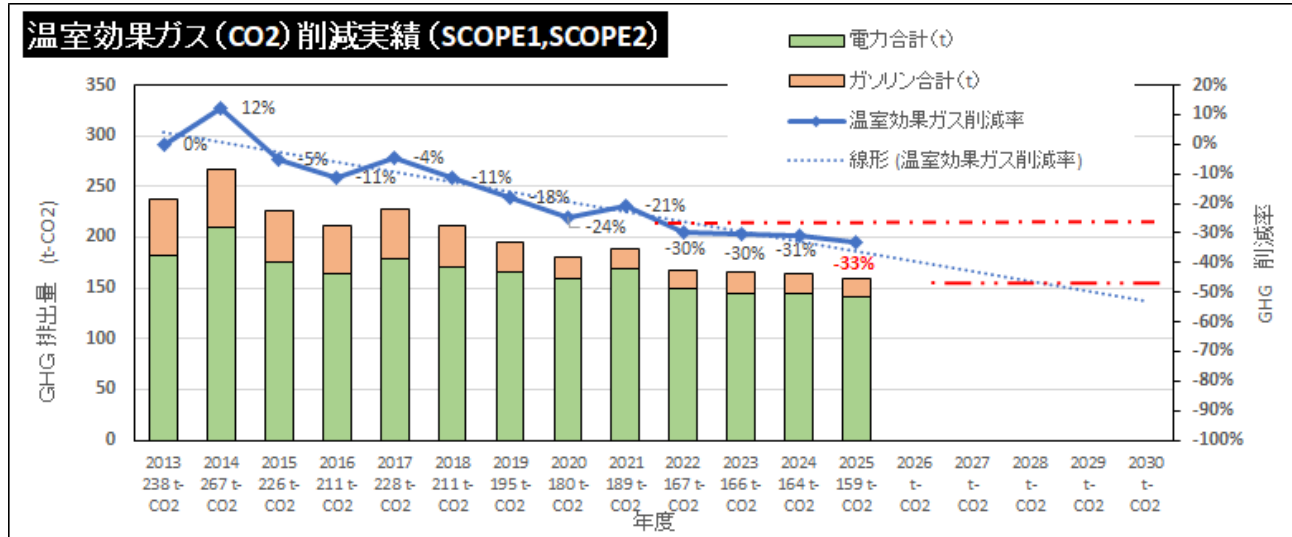
【注1】基準値判定 :○ ~100% △ ~124% × 125%~

【注2】燃費:基準値判定:○ 100%~ △ 81%~ × ~80%

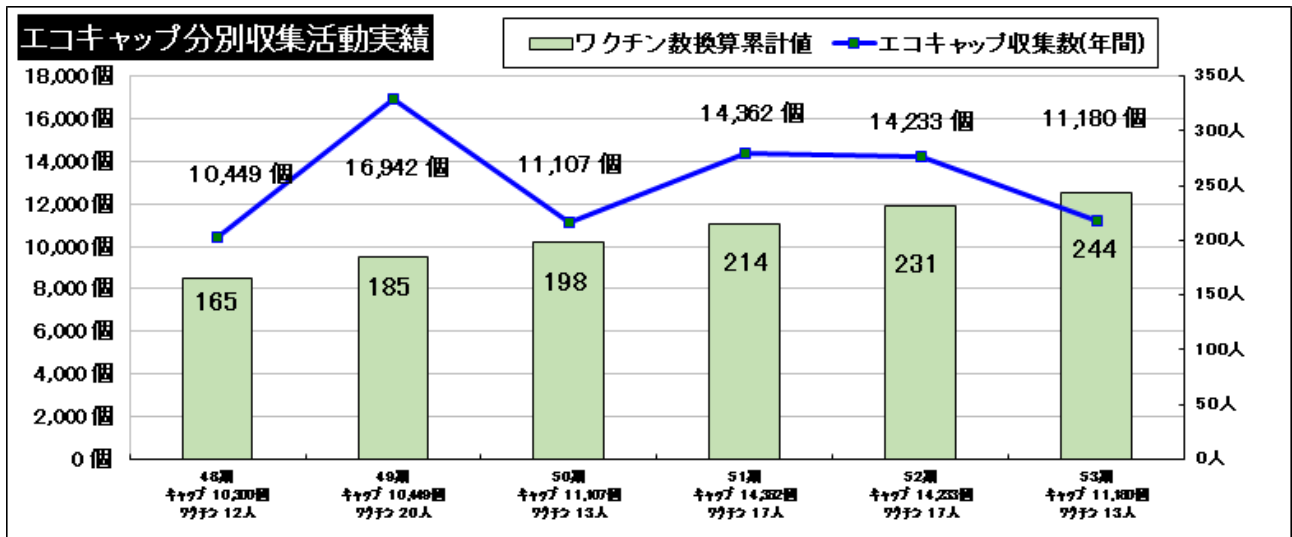
③ 電気料金と実質排出物処理金額



④ 温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)削減実績 (電力とガソリンの削減実績)



⑤ エコキャップ分別収集活動実績(37期(2009年)以降の累積)



## 7. ISO14001:外部審査と内部監査の結果(ISO9001 との統合)

### ① 外部審査:53 期 ISO 更新審査

国内、蘇州 2025/07/統合審査

結果:改善の機会=23 件、Good Point=1 件:

### ② 2025年度 ISO 統合内部監査 :2025. 10 月～26. 1 月

部門	MKT 八王子	Hdiv	IPlant	MKT 大阪	Odiv	SZE (リモート)	SSdiv	ADM	CP	IAO
監査日	10/23	10/23	10/24	11/20	11/20	11/27	26/1/23	26/1/28	26/1/28	26/1/28
不適合(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要観察(件)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
改善機会(件)	1	1	1	0	2	1	1	0	2	0
G・P(件)	1	2	1	1	3	0	1	1	1	1

### ③ 2025年度 SONY-GP 内部監査

	SONY-GP
監査日	26/2/19
不適合(件)	0
要観察(件)	0
改善機会(件)	0
G・P(件)	0

## 8. 2026 年度の主な取り組み事項

- a. 2026 年度の環境マネジメントシステムおよび環境活動では、「管理業務の集中と選択」をキーワードとして、業務の効率化と重点施策の推進を図ってまいります。
- b. 環境省が提唱する「COOL CHOICE」および、脱炭素社会の実現に向けたライフスタイル転換運動である「デコ活」を積極的に推進してまいります。  
(※「デコ活」とは、CO<sub>2</sub>削減を意味する“Decarbonization(脱炭素)”と“Eco(環境に配慮した行動)”を組み合わせた造語であり、環境に配慮した活動・生活の総称です。)
- c. 本社八王子地区における「モデル工場化」活動を継続し、具体的な目標・施策・成果指標を明確に設定した上で、その成果を他事業所へ水平展開し、全社的な環境パフォーマンスの向上を目指してまいります。
- d. 資源の枯渇リスクを踏まえ、滞留資産の発生抑制および生産資材の不要廃棄防止に向けた監視・改善活動を推進してまいります。
- e. 環境管理に要するコストの最適化に向けて、環境管理費用の実態把握、情報収集および継続的なコスト低減施策を推進してまいります。
- f. 循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行に向けて、社内からの排出物の削減・再使用・再資源化(3R)を推進してまいります。具体的には、梱包材の再使用、廃棄物の分別強化および有価物化を通じて、排出物処理コストの削減を継続的に図ってまいります。

以上